



インフルエンザ予防接種を今年も打つべき？

今年もそろそろインフルエンザの流行シーズンが到来します。

コロナ禍初の昨シーズンは、幸いにもインフルエンザは流行せず、心配されていた「同時流行」もみられませんでした。これは新型コロナ対策で、手指消毒やマスクの着用、三密の回避や、人の移動を制限するなどの感染対策がインフルエンザにも有効だったと考えられています。

では、今シーズンはどうでしょうか？今年に入ってから、新型コロナのワクチン接種が進んできている分、気の緩みから感染予防対策が疎かになってしまう可能性があります。

昨シーズンは、2歳までの子供が感染しやすいRSウイルス感染症や、インフルエンザが流行しませんでした。しかし、今年の夏は、RSウイルス感染症に感染した子供が急増し、例年よりもずれた時期に流行しました。これは、昨シーズンにRSウイルス感染症にかかる子供が少なかったため、免疫を持っていない子供たちに一気に感染したとされています。

インフルエンザも免疫を持たない人が増えているので、集団免疫が下がってきていることが考えられます。そのため、今シーズンはインフルエンザの流行が懸念されています。

今シーズンも昨シーズンと同様に、インフルエンザへの感染や、かかってしまった時の重症化予防のため、予防接種をすることが重要です。

インフルエンザと新型コロナウイルスの違い

	インフルエンザ	新型コロナウイルス
感染経路	接触・飛沫・空気	接触・飛沫・空気
潜伏期間	1～3 日間程度	1 日～3 週間程度
流行する時期	冬季	1 年を通して
症状の進行	急激	緩やか 急に悪化する可能性あり
症状	・ 38 度以上の高熱 ・ 関節痛、筋肉痛、頭痛 ・ 全身の倦怠感 など、 全身症状	・ 37 度 5 分以上の発熱が 4 日以上続く ・ 咳 ・ 息切れ ・ 頭痛、倦怠感、だるさ ・ 人によって味覚、嗅覚異常 ・ 肺炎（悪化した場合） ・ 無症状の場合もある

参考資料：EPARK